

| 平成29年度授業改善推進プラン(各教科) | | 文京区立千駄木小学校 | |
|----------------------|--|--|---|
| | | 平成29年9月 | |
| | 効果的な板書 ・ノート指導(ワークシート) | 対話(学び合い) | ふり返り・まとめの工夫 |
| 国語 | ○学習の見通しをもてるように、毎時間のめあてを板書する。 ○児童の共通した考えや、相違点など分かりやすく板書する。ノートに書く際は、色分けして分かりやすくまとめる。 | ○自分の考えをペア、グループ、全体で話し合うことで、理由の違いに気付かせ、多様な考えを共有し、学び合いのよさを実感できるようにする。 | ○めあてに対する振り返り、今日学んだことや次に取り組みたいことを自分の言葉でまとめる。また、次時の学習に生かすようにする。 |
| 社会 | ○1時間で調べること、考えること等を明確にし、毎時間のめあてを板書する。 ○見開き1ページを1時間とし、何を学習したのかが一目で分かるようにする。 | ○調べたことをもとに分かったことを話し合い、社会事象の意味やその事象に携わる人々の思い等を全体で共有することで、社会に対する関心を高める。 | ○本時のめあてに対して、調べて分かったことを、自分の言葉でまとめる。 ○まとめの書き出しの言葉を示すことで、どの児童もまとめを書けるようにする。 |
| 算数 | ○「問題」の分かっていることと求めることを確認し、「めあて」を明確にする。 ○見通しをもたせたり話し合ったりする場面では、解決のために必要な既習事項やキーワード、児童のつぶやきなどを板書する。 | ○ペアやグループ、全体の話し合いを内容や習熟に応じた方法で行う。 ○図、表、グラフ、式、キーワード等を使って自分の考えを表現する。 ○児童のつぶやきや発言を生かしそれぞれの考えをつなげたり、よさを見付けたり、よりよいものを見い出したりする。 | ○児童の言葉を生かし、つなぎながら、本時のめあてに正対したまとめを行う。 ○新たな発見や問い、疑問などにつながる学習感想を紹介する。 ○適用問題に取り組む時間を確保する。 |
| 理科 | ○「問題」「予想」「実験」「結果」「結論」「考察」の流れを明確にして展開し、板書する。 ○見開き1ページを1時間とし、何を学習したのかが一目で分かるようにする。 | ○グループで協力しながら実験や観察を行うことで、互いに学び合える環境を作る。 ○事象に対する自分の予想や実験の考察を交流することで、新たな問いや理解の深まりにつながるようにする。 | ○「結果」「結論」「考察」の違いを「～となった」「～が分かった」「～と思った」等の文末を意識してまとめさせる。 |
| 生活 | ○児童が夢中になれる対象との出会わせ方を工夫し、単元を通して児童の思いや願いが継続していけるようなめあてを設定する。 ○児童の思い、気付きなど思考の流れが分かるワークシートを工夫する。 | ○体験の充実を図り、調べたことや経験したことを伝え合う活動を通して、新たな気付きを共有し、学び合いの楽しさを実感できるようにする。 | ○毎時間、めあてに対する振り返りの時間を設け、よい気付きや深めたい考えをもっている児童の感想を共有する。 ○ワークシートを使用した際には、コメントを入れ、意欲やめあてにつながるようにする。 |
| 音楽 | ○様々な曲を聴いたり演奏したりする上で、音楽を形づくっている要素[共通事項]について、実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞に生かせるように、板書を工夫する。 | ○音楽表現をしたり、聴いたりする過程で「音楽的な見方・考え方」を働かせて、互いに気付いたことや感じ取ったことを言語化して交流したり、共有したり、共感し合ったりする。 | ○学んだことやそれを生かして次に取り組みたいことを自分の言葉でまとめ、発表させることで、表現や鑑賞の深まりに気付かせるようにする。 |
| 図工 | ○児童が主体的に活動できるように毎時間、活動のめあてを板書する。題材によって活動の流れ、材料、用具が多岐にわたる場合、手順や図を用いて板書する。 | ○児童の感じたことや考えが表現できるように、雰囲気づくりを行う。また、活動中に友達の作品が見られるよう学習環境に配慮する。 | ○毎時間、口頭でめあての振り返りを行う。また、題材ごとにワークシートに学習感想を書き、「新しく学んだこと」などを中心に自己の変容に気付かせる。 |
| 家庭 | ○学習を通して、児童が自分の生活をよりよくしたい、家族の一員として自信をもって役割を果たしたいという思いが継続していけるようなめあてを立てる。 | ○グループで調理や清掃などの仕方を調べ、計画、実践、振り返りを行うことで、友達と交流しながら課題をやりとげる体験をさせ、協働のよさに気付かせる。 | ○毎時間、口頭でめあての振り返りを行う。また、ワークシートに「家庭で実践したいこと」などを中心に学習感想を書かせ、家庭実践への意欲につなげる。 |
| 体育 | ○学習カードを活用し、本時のめあてを明確にする。児童一人一人の課題や成果を把握し、指導に生かしていく。 ○主運動に入る前に体ほぐしの運動や主運動につながる運動を行い、楽しく運動に取り組む中で体力向上を図る。 | ○ペアやグループで互いに動きを見合い、様子を伝えたりアドバイスしたりすることができるようにする。 ○学習資料や映像資料等を活用し、技能のポイントやアドバイスの仕方などを知り、学び合えるようにする。 | ○めあてに沿った振り返り・自己評価を記録させ、次の学習のめあてに生かせるように指導する。 |

平成29年度 文京区立千駄木小学校授業改善推進プラン

| 平成29年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果 及び児童による授業アンケートの結果 | | 平成29年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」及び児童による授業アンケートの分析 |
|--|--|---|
| 成果 | ○「発表する機会がある」「話し合う活動を行っている」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている児童は、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と答えた児童と比べて学力調査の正答率が平均して10%ほど高い。 | → 本校では対話型授業を校内研究の主軸とし、6年間取り組んできた。このことの成果として肯定的な評価の児童の正答率が高かったといえる。 |
| | ○「家の人と話をする」に「している」「たいていしている」と答えた児童は、「しないことが多い」「ほとんどしない」と答えた児童と比べて、国語、社会、算数の正答率が10%ほど高い。 | → 家庭での会話が多いほうが、正答率が高いことから、今後も家庭との連携を丁寧に進めていくことが重要である。 |
| | ○授業が「よく分かる」「分かる」と答えた児童の中で、理由として多く挙げられたものは、算数では「コースに分かれた少人数の授業があるから」(84%)、「算数の問題にはいろいろな解き方があるから」(61%)、理科では「観察したり、実験したりする授業が多いから」(78%)、「自分で予想し、それを確かめる授業が多いから」(78%)であった。 | → 算数においては、本校で実施している算数習熟度別の指導による成果が出ているといえる。 |
| | ○読書を毎日30分以上行っている児童は、そうでない児童と比べて6%ほど正答率が高く、2時間以上読書をする児童は全ての教科で平均正答率を上回っている。 | → 本校では保護者による読み聞かせなどを行っているが、今後より一層児童の読書習慣が身に付くような教育活動を工夫していくことが必要である。 |
| | ○「科学技術の仕事につきたい」「将来役立つ仕事をしたい」「将来に希望をもっている」に肯定的に答えた児童はそうでない児童と比べて正答率が高い傾向がある。 | → 将来の目標が見えている又は希望をもっている児童は、学習の目的も意識しやすいといえる。キャリア教育の充実を図ることの意義を改めて見直したい。あわせて、学習することの意義や必要性を感じられるめあてを設定することも検討していく。 |
| 課題 | △「問題解決学習をやっている」に「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた児童が21%いる。 | → 児童にとって、今やっている学習のゴールがどこにあるのかが明確になっていない状況であることが分かる。この学習を通して何が分かり、何ができるようになることよいかなど学習課題や問題が明確になる学習活動を設定することが必要である。さらに、学習の積み重ねを記録するという意味では、板書やノートの活用は欠かせない。児童が学びの軌跡を自らたどることができるような指導を徹底する必要がある。 |
| | △「めあて・ねらいが示されている」「振り返る活動を行っている」は90%以上の児童が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えているが、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた児童は5～7%いる。 | → 毎時間めあてを板書し、ノートに書かせているにもかかわらず、否定的な回答があること自体が問題だととらえる。改めて児童にとって分かりやすいめあての提示と、めあてに沿った振り返りを実施することが必要であることが分かった。 |
| | △授業が「よく分かる」「分かる」と答えた児童の理由として、「分からない時は学校の先生に聞くから」と答えた児童は13%、「分からない時に自分で調べるから」は20%で、「塾や家庭で教えてもらっているから」の53%より低い。 | → 単位時間ごとの振り返りを確実に行うことで、児童が何が分かり何が分かっていないのかを把握し、次時の授業に生かしていくことが必要である。特に分かっていないことを分かっていると表現できるチャンスを作ることで、確実に力を定着させていく指導につなげていく必要がある。 |
| | △授業アンケートにおいて、「分からない時があるとき丁寧に教えてくれますか」に「とても思う」と答えた児童は56%で、8項目中1番低い。また「授業は楽しく受けられますか」「自分の考えや意見をしっかり聞いてもらえますか」「がんばったことを認めてもらえますか」に「思わない」と答えた児童が3%いる。 | |

以上のことから、今年度の授業改善推進プランの重点は

- 効果的な板書・ノート指導(ワークシートを含む)
- 対話型授業の徹底(学び合いを取り入れる)
- 振り返り・まとめの工夫

とし、各教科における指導の工夫をまとめ、実施していく。